

# 松蔭 校長室だより

—校長から保護者の皆さまへのメッセージです—

2017年1月10日 発行

松蔭中学校・高等学校  
校長 浅井直光

喜ぶ人と共に喜び、泣く人とともに泣きなさい。(ローマの信徒への手紙 12:15)

## 新たな年を迎えて

### 創立 130 周年に向け、将来構想「ビジョン 130」を策定します

建学以来 125 年の節目となる新たな年を迎えました。1892 (明治 25) 年、英国国教会のフォス司教を校主とし、北野 (現在の神戸北野異人館街) の地に産声をあげた小さな女学校は、防風や防潮のために植林され、古くから日本の国土を代表する樹木である松を校名に加えました。当時の宣教師は書簡に「松は非常に日本的な樹木であり、慎み深さと汚れなく生きることを意味します。その松の木蔭に乙女たちが住み、学んでいるという姿が、日本人たちに伝えたい学校の理念です」と記しています。以来松蔭は第二次大戦中の聖書の授業や礼拝、英語教育の禁止、神戸空襲による校舎の焼失など幾度かの危機を乗り越え、多くの卒業生を輩出してきました。

現在進められている日本の教育改革は、高校教育改革と大学教育改革、そして高大接続改革すなわち大学入試制度改革の 3 つがセットになり、学校教育の中身と大学受験の制度を大変革させるものです。本校が創立 130 周年を迎える 2022 年までの間に、2019 年度高校 2 年生 (現中学 2 年生) が受験する基礎学力テスト試行実施と翌年の大学入試新テスト導入、2021 年の中学校新学習指導要領の一斉実施と翌年からの高校新学習指導要領の年次進行が予定されています。アクティブラーニングと呼ばれる生徒主体の学び方を授業に導入することも本格化します。

今お預かりしている生徒、そしてこれから松蔭に入学する生徒に対する責任ある指導が求められています。課題が山積するこれからのグローバル社会をしっかりと生き抜くことができる女性を育成する教育を展開する一方で、オープンハートの精神と細やかな配慮のある女子教育の伝統を守り続けなければなりません。公立校でも数年後には教室の無線 LAN 環境整備や全生徒を対象としたタブレット端末の導入が予定されており、ICT 教育の推進も必須です。新たな教育制度への対応と特色ある教育内容づくり、教育内容の再編成と設備整備が必要な段階に入っています。

以上のような見通しのもとで中長期将来構想「ビジョン 130」を策定する作業を始めています。現在、校長を委員長とする「全学教育構想委員会」ならびに 4 つの小委員会 (「学外連携小委員会」「6 日制活動小委員会」「カリキュラム小委員会」「ICT 小委員会」) を発足させ、下記分野について検討を開始しています。

①キリスト教主義教育、英語教育、グローバル教育、人権教育を柱とする特色ある教育課程と行事。

②私立大、国公立大学進学を視野にいたした進路指導と進学対策。

③併設大学をはじめインターナショナルスクールなどとの様々な形態の連携教育。

④学校および教育活動の高度情報化 (ICT 化)。

良き伝統を保ち、変革すべきは変える。勇気をもって一歩ずつ前進したいと思います。今年度も学校評価アンケートを実施する予定です。様々なご意見をお寄せいただければ幸いです。

生徒が学校で自分が受け容れられていると感じる時、その学校に愛着を持ち安心して学校に所属することができます。この点では松蔭は間違いなく日本一の学校だと言えるのではないのでしょうか。今後の変革のなかでも「生徒が学校を好きだ」「もっと松蔭が好きになった」と感じることができるよう、皆で共に次代の松蔭をつくりたいと考えています。今後、中間報告も含めて説明申し上げます。保護者の皆様のご協力をよろしくお願いたします。

なお、2017 年度の教育内容の再編成並びに設備整備について、現時点で下記を決めています。

①CALL 教室 (中学オーラルで使用している教室) を改装した多目的「ICT 教室」の設置。

②数学の学力差に対応するための数学授業 (中学生および高校 1 年生) の運営形態の一部変更。

中学 1 年生 → 「数学特別グレード (仮称)」授業の設定

中学 2 年生 → 数学グレード講座数の増加

中学 3 年生 → 数学グレード講座数の増加

英語特別クラスを含む全クラス対象グレード授業の実施

高校 1 年生 → 英語特別クラスを含む全クラス対象グレード授業の実施

\* 該当する学年には別にお知らせする予定です。

### 「英語の松蔭」 いよいよ英検・TOEIC 全校受験です

1 月 20 日 (金) ⑤⑥校時は英検・TOEIC 全校受験です。土曜日の ECC 英検合格対策講座のほか、冬休みに英検講座が開講された学年もありました。校外会場で第 1 回 (6 月)、第 2 回 (10 月) を受験した生徒も 1 年の締めくくりの最終チャレンジとなります。目標は 2 級を高校卒業までに、英語特別クラスは高校 1 年次修了までに取得することです。2 級合格後は TOEIC にチャレンジしますが、学外で準 1 級を受験して合格する生徒もいます。ECC 英検合格対策講座はこれまで 2 級講座まででしたが、今後は準 1 級講座も開講することを検討しています。詳細が決まり次第連絡いたします。より高い英語力の習得を目指し、努力を重ねることを期待しています。

なお中学入試期間に入るため今週末の 1 月 13 日 (金) は授業が 4 校時で打ち切りとなり、週明けの 16 日 (月) は休校日になります。英検対策を含めて家庭学習をしっかり進めて欲しいと思います。

### 1・17 阪神淡路大震災 記念礼拝

図書館の柱に掛けられている鳩時計は今も 22 年前の地震発生時刻、午前 5 時 46 分を指したまま止まっています。

生徒にとっては生まれる前の出来事ですが、当時高校3年生と中学3年生の2名の生徒と多数の卒業生を含む6400余名の命を一瞬にして奪った大震災を覚える礼拝となります。昨年は教室での放送礼拝でしたが、今年は下記のように1月17日（火）①校時前に講堂で行います。

参加：中1～高2の生徒      時間帯：8時20分教室集合      8時30分講堂で礼拝

大震災を覚え祈りの時間を持つことは、この大震災だけでなく東日本大震災、熊本地震を始めこれまで各地で発生した大災害の犠牲者の御霊（みたま）を慰め、その家族の悲しみや被災した方々の苦しみに思いを寄せるひと時を持つことです。当日17日の放課後にはチャペルでも希望者による追悼礼拝、21日（土）には神戸市灘区周辺の慰霊記念碑巡りも予定しています。詳細については後日配布されるチャペルニュースをご覧ください。なお、地震防災訓練としてシェイクアウト訓練が各自治体を中心に実施されていますが、本校も神戸市のシェイクアウト訓練に参加します。記念礼拝当日の午前10時（②校時授業中）に行う予定です。

## 「なぜ校歌を歌わないのですか？」

あ、清浄のすぐなる心  仰ぎみる  天そそる山摩耶六甲  声高らかに歌ひつつ  いざや登らなん
お、明朗のすずしき眼  みはるかす  はてなき海よ紀伊こえて  思いを遠く湛へつつ  いざや祈らなん
あ、生々の深きゆかりを  永遠に見る  窓辺に近き松の森  変わらぬ恵憶えつつ  いざや学ばなん
お、脈々と若き血潮の  躍るかな  光漲る庭面に  伸びゆく力試しつつ  いざや鍛へなん
あ、金色の夕映えの空  つつましく  しづもる島や淡路島  をみなのとめ守りつつ  いざや励まなん
（校歌  作詞浅野勇  作曲山田耕筰）

放送部員から「松蔭では聖歌をよく歌いますが、校歌をほとんど歌わないのはなぜですか？」と質問を受けました。たしかに毎週の全校礼拝は聖歌だけですし、始業式や終業式も礼拝形式で行うため聖歌は歌いますが、他校のように校歌を斉唱しません。生徒が校歌を歌う回数を数えてみると、最も多い高校3年生で中学入学式に体育祭、自分たちの卒業式と年に3回だけで、高校1年生にいたっては体育祭1回きりです。「それじゃ歌いましょう」「ピアノ伴奏も生徒にお願いしましょう」ということで2学期終業式に全員で校歌を斉唱しました。ピアノ伴奏を中学終業式は3年生の富田さん、高校終業式は3年生の霜下さんをお願いしました。歌詞を覚えていない生徒もいるだろうと、スクリーンに歌詞を映し出して校歌を歌いました。

1939（昭和14）年、第9代校長浅野勇が創作した歌詞と、「からたちの花」「赤とんぼ」等で知られる山田耕筰による美しい旋律は、山と海を望む神戸の地が育む、素直で優しい松蔭生の姿を見事に表現しています。当時開催された校歌発表会に来校した山田氏は、生徒が歌う様子を見て「皆、頭を下げてまるでお葬式ようだ。『声高らかにうたひつつ』というところはもっと朗らかに。皆さんの声は『悲しげに嘆きつつ』だ」と話しながら自身のピアノで懇切に指導した、という記録が残っています。（『松蔭女子学院百年史』）本校ホームページのトップに生徒の画像を使用していますが、これは当時の購買部で販売された校歌楽譜の表紙で、本校の美術講師であった小磯良平画伯の筆によるものです。卒業生は折に触れ聖歌を口ずさむことがあると聞きます。聖歌とともに校歌も心に残して欲しいものです。